



# 学校だより 2月号

横浜市立日吉南小学校

令和5年1月31日

## 子どもの成長

副校長 中村 英治

ひよみな◆なぞときウォークラリーが先週28日(土)に開催されました。200名を超える子どもたちが参加して真剣な表情で謎解きを楽しんでいました。その様子を見て、今学校が目指している「主体的・対話的で深い学び」に通じるところがあると感じたところです。ひよみなパートナーの皆様、ひよみなPTAの皆様、ありがとうございました。

さて、校舎内には、あちらこちらに子どもたちの作品が掲示されています。書き初め、今年目標、冬休みの出来事、図工の作品、係活動など、子どもたちの学習の一部ではありますが、一人ひとりの顔が想像できる作品ばかりです。私は、早朝や放課後に校舎内外の施設の見回りをしています。子どもたちの姿がない歓声も聞こえない教室や廊下は、とても寂しいのですが不思議なことに、子どもたちの雰囲気を感じる匂いや空気があります。そして、たくさんの掲示物からは、子どもたちの声が聞こえてくるようであり、またそれぞれの学級らしさが出ています。そんなことを思いながら、子どもたち一人ひとりの作品を見ていると、この1年間の成長に驚かされます。

1年生の書き初めは、自分で選んだ課題を一文字一文字ていねいに正確に書いていました。また、昔話の紹介文は、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表し方を工夫しています。4月の入学当初に書いた「自分の名前」の学習を振り返ると、平仮名や片仮名の学習の成果が見られ素晴らしい成長を感じます。

今年初めて学んだ習字道具を使い、体育館で気を引き締めながら書いた3年生の書き初め。長い半紙に書くのが大変で、墨で手を真っ黒にしながらかいた様子が想像できますが、堂々と書かれた「友だち」からは、日本の伝統文化に親しんだ満足感が感じられました。

6年生の書き初めは「将来の夢」。卒業が迫ってきている最高学年には、力強さがありました。字に表すことで、自身の将来を具体的に考えるきっかけになればと思っています。

まだまだ書き尽くせない子どもたちの成長ですが、どの作品からも一生懸命に学び・取り組んだ姿が想像できます。そして、じっくり見ながら思わず頬がゆるみ一人ほほえんでしまいます。本年度も残り少なくなってきました。今までお子さんが持ち帰ってきた様々な作品を広げて眺めてみてはいかがでしょうか。きっと大きな成長を感じると思います。あわただしく過ぎていく日々の生活の中で、静まりかえった校舎を歩きながら、改めて子どもたちの成長の素晴らしさに思いをはせているこの頃です。

新型コロナの5類移行時期を政府が決定したことが報道されています。学校は、今後改定されるであろう衛生管理マニュアルに則り、全ての子どもたちが安心・安全にそして主体的な学びでさらなる成長ができるよう教職員一同、力を尽くしてまいります。どうぞ皆様のご支援とご協力をお願いいたします。